

シカクマメ発酵エキス

シカクマメ(四角豆、学名:Psophocarpus tetragonolobus)はマメ科シカクマメ属の多年草です。熱帯アジア原産で、実の断面がひだのついた四角形です。沖縄では「うりずん豆」「シカクマーミ」、日本本土では「琉球四角豆」として販売されています。ビルマやインド、インドネシア、パプアニューギニア、日本の沖縄県や小笠原諸島などでも栽培されています。さやの中からの豆を取り出し、煮物、炒め物や揚げ物(天ぷら)などにされ、食用されます。さっぱりした味でくせがなく歯ごたえを楽しめます。たんぱく質や有機酸が豊富であり、紫外線から身を守る成分を含有しています。しかし、たんぱく質は高分子であり、溶解性が低いため、低分子化されています。特に、発酵エキスとすることにより、低分子で有効成分を皮膚細胞に直接的に作用することができる新しい発酵エキスが完成しました。



働き

SCF受容体活性化作用 ヒアルロン酸産生作用

化粧品表示名称

表示名称 シカクマメ種子エキス、バチルス／ダイズ発酵エキス
INCI

PSOPHOCARPUS TETRAGONOLOBUS SEED EXTRACT、
BACILLUS/SOYBEAN FERMENT EXTRACT

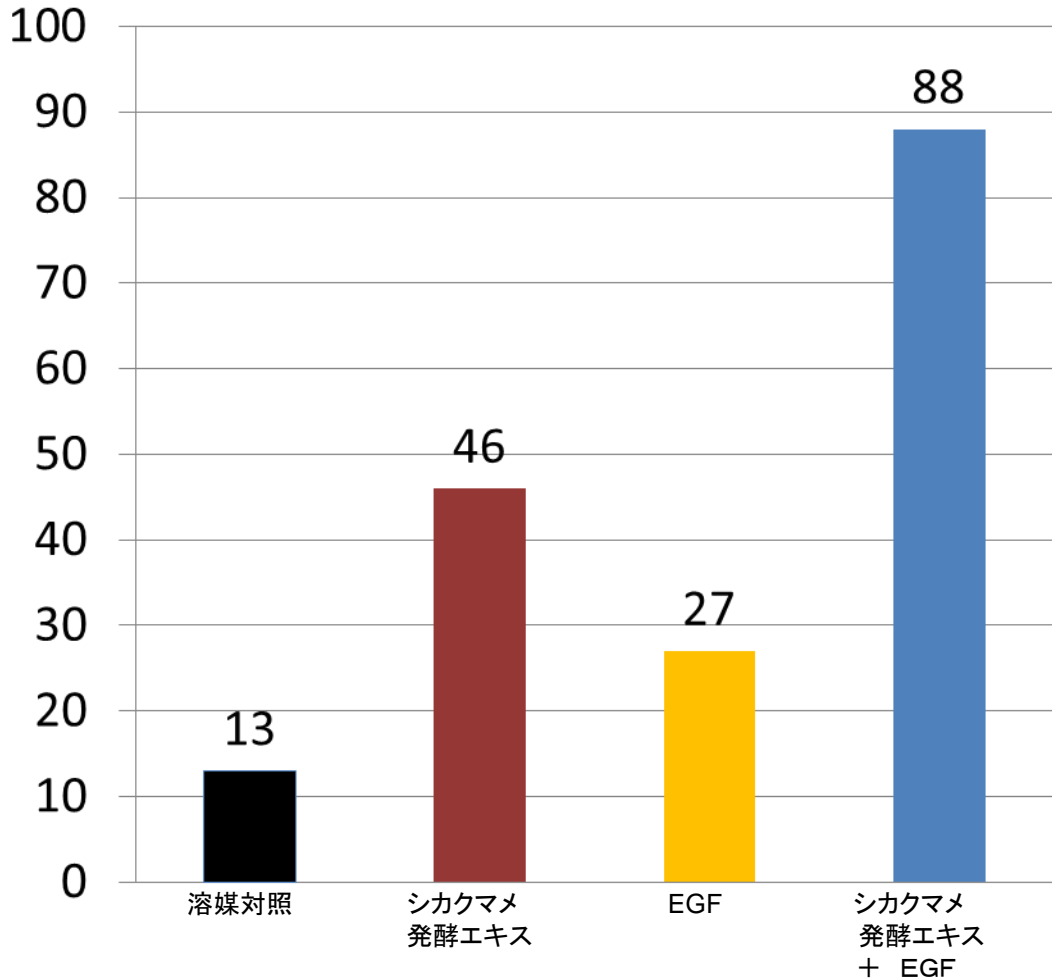
安全性 ヒト パッチ試験により安全性を確認

防腐剤／BG 含んでいません

特許 出願済

シカクマメ発酵エキス

皮膚上皮幹細胞
幹細胞数(×1000個)



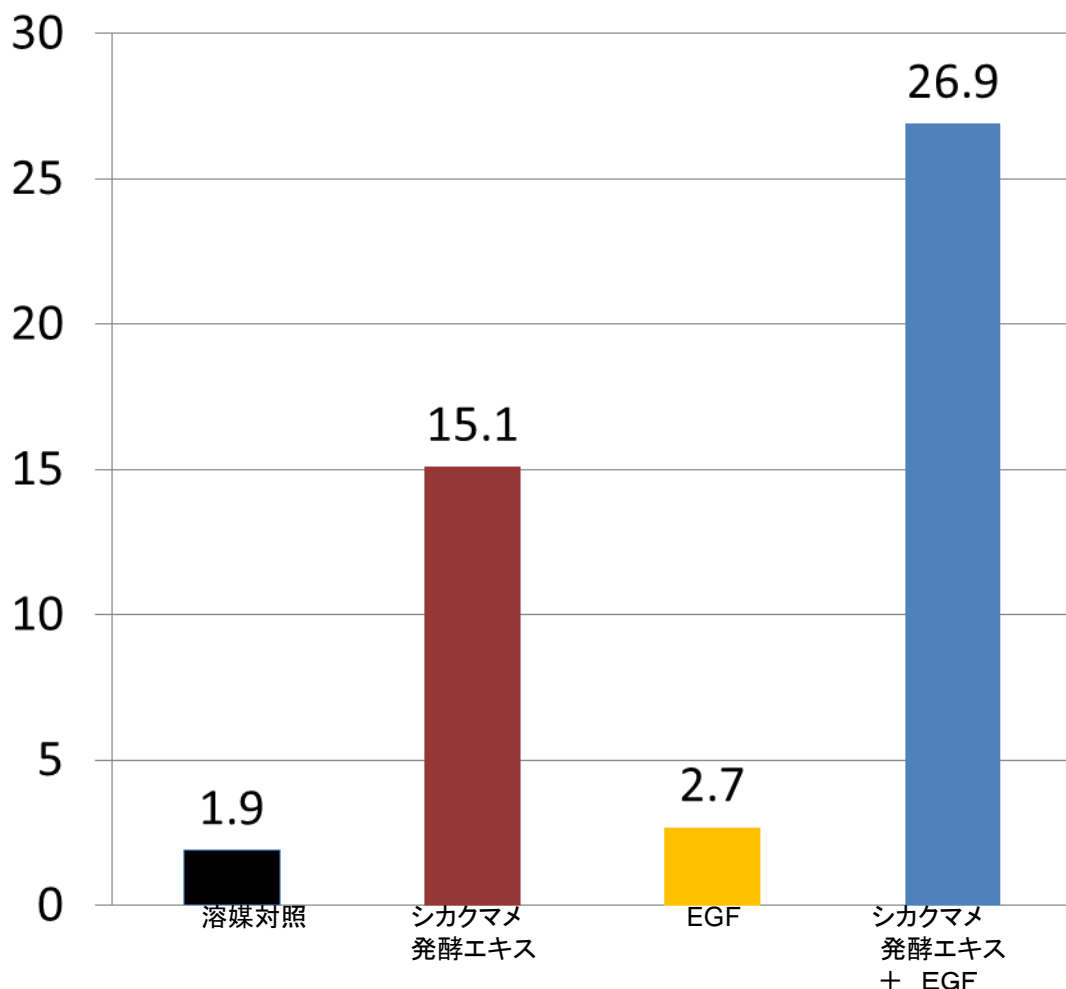
ヒト由来皮膚細胞より幹細胞を採取し、紫外線照射により障害を受けさせました。これは紫外線による障害モデルです。

シカクマメ発酵エキスはヒト皮膚幹細胞に対して幹細胞数を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。

さらに、EGFとの併用により相乗的な作用が認められました。

シカクマメ発酵エキス

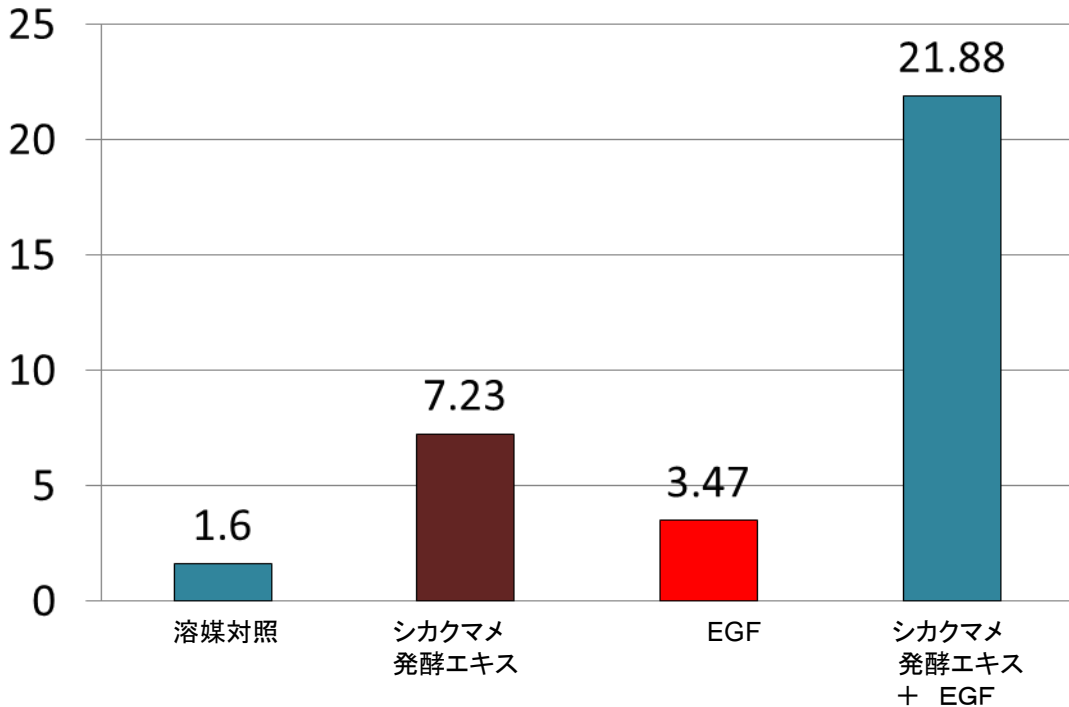
皮膚幹細胞 SCF・EGF受容体
(Bound Capacity / 1000個)



ヒト由来皮膚細胞より幹細胞を採取し、紫外線照射により障害を受けさせました。シカクマメ発酵エキスはヒト皮膚幹細胞に対してSCF受容体とEGF受容体の結合性を増加させました。その働きはEGFよりも優れていました。さらに、EGFとの併用により相乗的な作用が認められました。

シカクマメ発酵エキス

ヒアルロン酸産生量(μg /1000細胞)



ヒト由来皮膚細胞より幹細胞を採取し、紫外線照射により障害を受けさせました。ここにシカクマメ発酵エキスを添加して処理した結果、幹細胞から産生されるヒアルロン酸は増加しました。その働きはEGFよりも優れていました。さらに、EGFとの併用により相乗的な作用が認められました。

シカクマメ発酵エキス

製品規格書

製品名 : シカクマメ発酵エキス

検査項目 :

1. 外観

検査項目	規格	測定方法
色	茶色～薄茶色	目視
状態	液体	目視

2. 成分

検査項目	規格	測定方法
一般細菌数 (生菌数)	300 以下/g	標準寒天平板培養法
真菌数	陰性	デキストリン培地培養法
大腸菌群数	陰性	MPN算出法
重金属	20ppm 以下	硫化ナトリウム比色法
砒素	2ppm 以下	原子吸光光度法

化粧品表示

表示名称 シカクマメ種子エキス、バチルス/ダイズ発酵エキス

INCI

PSOPHOCARPUS TETRAGONOLOBUS SEED EXTRACT,
BACILLUS/SOYBEAN FERMENT EXTRACT

賞味期限 : 製造日より2年以内

原材料 :

シカクマメ種子 (日本産)、納豆菌 (日本産)、ダイズ (日本産)

保管方法 : 直射日光を避け、冷暗所に保管する。

シカクマメ発酵エキス

製品安全データシート (MSDS)

作成日 平成 26 年 7 月 6 日

< 1. 製造者情報 >

製品名 : シカクマメ発酵エキス

製造法概略 : シカクマメ種子を納豆菌とダイスにて発酵させ、熱水で抽出し、ろ過後、滅菌乾燥されたエキス液 (溶媒 : 水)

< 2. 物質の特定 > シカクマメ発酵エキス

単一製品・混合物の区別 : 発酵エキス液

化学名 (一般名) : 特定できない

CAS RN : 特定できない

化審法番号 : なし

安衛法番号 : なし

国連番号 (番号 クラス) : 該当せず

EINECS : なし

TSCA : なし

< 3. 危険有害性の分類 >

分類の名称 : 分類基準に該当しない

危険性 : 可能性がある。 熱、火花及び火災で着火することがある。

有害性 : 眼、呼吸器及び皮膚を刺激するおそれがある。

環境影響 : 記載すべき情報はない。

< 4. 応急措置 >

目に入った場合 : 直ちにまぶたを開いて、流水で15分間以上洗浄する。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。

皮膚に付着した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。

吸入した場合 : 症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。

飲み込んだ場合 : 多量に飲み込んだ場合、下痢を起こす場合がある。症状が出た場合等、必要に応じて医師の相談を受ける。

< 5. 火災の措置 >

消火方法 : 消火作業は、風上から行う。危険でなければ、容器を火災区域から移動させる。関係者以外は、安全な場所に退避させる。